

告知板

「共同課題」を中心とした通信十九号を御届けする。学界つづきのせいもあるが、どうか、どうも会員諸賢からの寄稿のすくなくないのが心残りであるが、一応とりまとめてみた。前回の共同討議記録に対する御批評や御意見をふくめて、御投稿を仰ぎたい。

才一回の時（仙台大会）に一部発表のおこなわれた「煙山調査」が、「村落構造の史的分析」（A5版九〇八頁、日本評論新社、一八〇〇円）として、今回刊行されたので、これをめぐって矢木明夫氏から問題を提示して頂いた。その他、井森・山岡氏からも御提言を得て、とにかく形をつけたが、次回もつといるいゝるの方面からの発言を期待したい。

会費の払込が渋滞しているようである。何卒御協力を得たい。振替利用（東京二三八八六番）の場合は、東京教育大学社会学研究室附、現金の場合は、東北大学教育学部研究室にねがいたい。その後の会費納入者は今のところ次のようである。

大内力、米山桂三、山室周平、丸山学、小森健治、中野卓
新入会員は、柿崎京一、飯塚博久
なお、住所変更の際は御連絡願いたい。

このところ、関東、関西、西部、東北と各社会学支部の大会が相ついで開かれた。その他、社会経済史学会、歴史学研究会、あるいは各地の史学会などでも、大会がおこなわれたようである。それらにあらわれた村落研究の動向について、関係の方々から御通信をえたいものと思つてもいる。

(竹)